

新型コロナウイルス対応緊急支援助成
事業計画（実行団体）

事業名(主)	脱孤立！地域資源を活かしたつながりの場
事業名(副) ※任意	

入力数 主 19 字 副 0 字

実行団体名	合同会社SOULS
資金分配団体名	公益財団法人 信託資本財団

優先的に解決すべき社会の諸課題

領域	分野
1) 子ども及び若者の支援に係る活動	①経済的困窮など、家庭内に課題を抱える子どもの支援
	②日常生活や成長に困難を抱える子どもと若者の育成支援
	③社会的課題の解決を担う若者の能力開発支援
2) 日常生活又は社会生活を営む上での困難を有する者の支援に係る活動	④働くことが困難な人への支援
	⑤社会的孤立や差別の解消に向けた支援
3) 地域社会における活力の低下その他の社会的に困難な状況に直面している地域の支援に係る活動	⑥地域の働く場づくりの支援
	⑦安心・安全に暮らせるコミュニティづくりへの支援

上記以外 その他の解決すべき社会の課題	
------------------------	--

入力数 0 字

SDGsとの関連

ゴール
_3.すべての人に健康と福祉を
_8.働きがいも経済成長も
_11.住み続けられるまちづくりを
_12.つくる責任つかう責任
_15.陸の豊かさを守ろう

実施時期	2021年 5月 ～ 2022年4月	事業 対象地域	全国 特定地域（ 奈良県 ）	事業対象者： （事業で直接 介入する対象 者と、その他 最終受益者を 含む）	子育て中の母及び高齢者	事業 対象者人 数	100人
------	--------------------	------------	-------------------	---	-------------	-----------------	------

I. 団体の社会的役割

(1)申請団体の目的
既存の枠組みや価値観を超え、関わる一人一人が自らのアイデアや行動で教育や子育てに関わる社会問題、地域の課題を解決に向けてのプロセスも学びと体験として取り組めることを事業としてともに幸福度の高い社会を目指す
(2)申請団体の概要・事業内容等
子どもたちの主体性を大切に自然環境教育「森のようちえんウィズ・ナチュラ」、未就園児の親子クラス、乳幼児の発達を促しをサポートする赤ちゃんクラス、産前産後のケアサポート、未就園児の親子で絵本読み聞かせ会、週末イベント型親子で体験森のようちえん、母の企業サポート、0歳～100歳まで安心安全素材（地産地消）で作るごはんと自然食品の販売をするカフェ。地域交流の場「てんり高原マルシェ」の企画運営。

入力数 (1) 102 字 (2) 197 字

II. 事業の背景・社会課題

新型コロナウイルス感染症により深刻化した社会課題
2020年に出産された人の出産時の新型コロナウイルスによる影響についてのアンケートでは91.2%の人が影響があったと回答。「面会が出来なくなった」「立ち合い出産禁止」等が大半を占め、出産後は後陣痛などでまだカラダも辛い状態のことも多いため、一人で耐えなければいけない状況が精神的にもつらかったという声もある。また、現在妊婦である関係者アンケートによると、「コロナで希望していて出産が行かないこと、不安を感じていること、サポートがないと孤独な産後をどう過ごすか想像もできない。」などの回答があった。その後も、感染が気になって育児の相談もできないと不安な気持ちのまま子育てに入る。4人に一人が産後うつという前年比に比べて倍増している。これ全国の母親たちが深刻な状況であることは、研究者による最新の調査でも明らかになっている。また、市の子育てサポートはあるものの当事者のみの利用に限られており、兄妹のサポートは行えない現状である。助産院での両親学級や支援も制限されている。キャリアを積んできた世代が、妊娠出産を機に「母」になり地域とのコミュニティーや相談できる相手がいないまま孤独に子育てを始める。こういった背景があり、地域の一人暮らしの孤独な生活をしている高齢者と繋がるコミュニティーが形成されれば、両方にとっての安心の場所になる。そこに生きがいを見出していける循環を作る必要がある。

入力数 589 字

III.事業内容

(1)事業の概要
 ワンオペ育児のケアサポート、先輩ママの訪問による家事や子どもの見守りサポートや食事の宅配を行う。耕作放棄地で育てた野菜を宅配のお料理に使用、孤立したママの自立や社会との接点を取り戻すサポートと地域資源の活用としてすでに地域にある高齢者サロンとの連携により多世代が交流できる居場所と雇用を作り出す。また持続可能な自立支援を含めた循環型コミュニティを構築していくために移動式コミュニティーカー（飲食の提供・物販）を導入。必要な地域に向いて小さな集落でのコミュニティーの場を創り出す。食品加工・製造・販売を通して地域課題と社会の課題解決につなげる。

入力数 274 字

(2)事業実施後（1年後）以降に目標とする状態
 ワンオペ育児の母子を関係者はじめ助産院との連携で、的確にサポートできる体制ができている。ワンオペ育児をへて、子が育つと共にこの事業（加工・販売・地域連携・サポート）に参画している。移動コミュニティーカーの活動と耕作放棄地の農産物育成により、地域の高齢者や多世代の関りが構築され、高原地域の各集落で周知され食事が必要なお宅へお届け出来ている。それぞれの関りを通して心のサポートが構築されている。

入力数 197 字

(3)今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）	実施・到達状況の目安とする指標	把握方法	目標値/目標状態	目標達成時期
ワンオペ育児の母がワンオペを経て、地域の各集落10世帯を巻き込みながら、耕作放棄地が3箇所を農地にし、作物を育てながら加工までを担う。月100食を目標とした加工が行える程になっている。	・産褥サポート数からの事業参画者の人数・配食数・高齢サロンの参加数・移動コミュニティーカーの出動数	・産後ケア事業の利用実人数のカウント、・配食数のカウント・高齢者サロンの稼働数のカウント・移動コミュニティーカー稼働数のカウント	・サポート数 5名（うち3名参画）・サロン参加人数 延べ 50人 配食数 500食・移動コミュニティーカー 稼働数 40回（月20回×2か月分）	2022年2月28日

(4)活動	時期
食品加工のコンサル開始・メニュー開発打合せ・食品加工場の契約・設備設営の打合せ・移動コミュニティーカーの見積もり・手配・発注/	2021.年5月
食品加工場の機材搬入・設置・営業申請許可・試運転、各種保険の手続き・高齢者サロンとの日程調整・サポーター・農作物従事者公募	2021.6~7月
夏野菜の収穫（サロン活動）・配食チラシ作成・デザイン構成打合せ・関係者ママとのミーティング・加工食品（秋メニュー）	.
産褥サポート開始・食品コンサル（冬のメニュー）・関係者ママとのミーティング	2021.8
加工メニュー試作（冬）・高齢者サロンとの活動・コミュニティーカー納車・関係者ママとのミーティング・農作物冬越え準備	2021.9~10月
加工場運転開始・試食会・産褥後アンケート実施・関係者ママとのミーティング・コミュニティーカーテスト運転	2021.11~12月
農作物春野菜の植え付け・移動コミュニティーカー稼働（冬こそ暖かいものをキャンペーン）	2022. 1~2月

IV.事業実施体制

(1)メンバー構成と各メンバーの役割	総括：福田典代・岡本麻友子（作物の選別・発注・メニュー作成・加工・栽培） / 産褥サポート：堀真由美 / 託児：西野美佳（母の活動中の託児） / 農作物の栽培：後藤有花・高齢者サロンメンバー・上山田農地保全会・ナチュラ畑部/ 加工：福田典代・高齢者サロンメンバー・堀真由美/移動コミュニティーカー：佐野有賀・堀真由美/
(2)他団体との連携体制	株式会社 フード・テラー / 工房やまと / 石井助産院 / 芽愛助産院 /上山田農地保全会
(3)想定されるリスクと管理体制	○人との接触による感染の防止対策として事業に携わる者の体調の把握（毎日の検温・体調・家族の体調）○加工場での対策：消毒・換気・空気清浄機の設置○高齢者サロンとの協同作業時：活動の人数制限最大10人まで 間隔を開け野外で作業を行う○宅配時の事故に対して：保険の加入・担当者の睡眠時間・体調の把握○

V.関連する主な実績

(1)休眠預金以外の助成・補助金活用の有無				
コロナウイルス感染症に係る事業				
①本申請事業について、コロナウイルス感染症に係る助成金や寄付等を受け活動を実施している(予定も含む)	有	無	有の場合 その詳細	
②本申請事業について、国又は地方公共団体から補助金又は貸付金（ふるさと納税を財源とする資金提供を含む）を受けていない	無	※有の場合、選定の対象外となります（公募要領：助成方針参照）		
(2)申請事業に関連する調査研究、連携の実績				
<調査研究>○家庭や地域の子育て力:子ども・子育て本部-内閣府（参照）○第3章 2.2.（8）親の社会的孤立の状況-内閣府（参照）○子育て中・経験者1000人に聞く「子育て中の孤立や孤独に関する調67%が孤立や孤独を経験、女性は74%が経験有。No1地域SNS「ピアッザ」調査参照○関係者妊産婦のアンケート実施 <連携の事業実績>○株式会社フード・テラー：農産レストランのコンサルティング業務農産加工品・農産加工所のコンサルティング業務・講演会・シンポジウム・研修会の企画・開催・運営業務・メニュー開発・商品開発業務料理教室の企画・運営業務/様々な飲食施設・農産加工場・道直売所・道の駅立ち上げに従事。○工房やまと：高齢者サロン平成28年から令和3年現在まで通年4~6回開催。○石井助産院・芽愛助産院 産褥ケアサポート中の母子との連携2018~2020実施				